

令和5年度 事業報告

令和5年（2023年）度は、4月に常任指揮者に高関健、指揮者に太田弦が就任し、9月には16年ぶりに副指揮者に神成大輝が就任しました。

仙台フィル創立50周年記念の一年となるため、これを記念する4つの特別演奏会を企画したほか、定期演奏会では歴代の指揮者や、ゆかりのあるソリストをお招きし「感謝と躍進」と題して50年の歴史を振り返りながら、仙台フィルを支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちを表し、また将来に向けての飛躍を誓う一年としました。

この50周年を広くお知らせするために、仙台市の協力のもと、市役所本庁舎東側壁面に指揮者や楽団員の写真をあしらった、巨大懸垂幕を掲載したほか、市政だよりにて特集ページを掲載していただきました。

また、河北新報社様のご配慮により、50周年特集記事や各定期演奏会の事前特集、歴代コンサートマスター特集を組んでいただいたほか、河北ウィークリーには50周年記念特集記事を組んでいただきました。

さらに仙台市交通局様には、日立システムズホールの最寄り駅である地下鉄旭ヶ丘駅に、50周年記念ポスターを多数掲示していただきました。

一方、ここ数年猛威を振るった新型コロナウイルスの感染状況が一定程度改善し、5月には感染症法上の位置付けが2類から5類に移行したことにより、感染防止対策も大幅に緩和され、社会全体に活気が戻り、入場者数もコロナ禍以前の水準まで回復しつつあります。しかし一方で世界情勢の不安定さの中、エネルギー価格の高騰や円安の進行、さらにコロナ禍の中で大きな支援となった国の助成金や金融機関等からの多額の寄付は無くなっており、楽団を取り巻く環境は厳しさを増しております。

1 楽団経営健全化への取り組み

令和5年度は「経営健全化に向けた新たな取り組み」の6年目でした。

引き続き「適正な編成規模への見直し」により経営の健全化を図ることを進めてきました。

退職不補充により、パート毎に定めた適正な人数を令和9年度（2027年度）

には達成（楽団員 66 名体制）することを目標としておりますが、定年前退職者も発生しており令和 5 年度末現在の楽団員数は 63 名となっており、オーディションにより適正人員を確保しているところです。

コロナ禍で減少した依頼公演数を取り戻すべく、公演獲得のための営業活動にも力を入れ、東北学院大学新キャンパス押川記念ホールのこけら落とし公演や、酒田共同火力 50 周年記念コンサート、多賀城オペラ公演「椿姫」、ビルボードクラシックス、ロームミュージックファンデーション 30 周年記念コンサート等の獲得や文化庁「オーケストラ・キャラバン公演」の受託に繋げてまいりましたが、文化庁巡回公演数の減少等によりコロナ禍以前の公演数にはいまだ達しておりません。

2. 交響管弦楽の演奏

(1) 定期演奏会（9 回（18 日）・18 公演）

令和 5 年度は常任指揮者高関健の就任、指揮者太田弦の就任そして仙台フィル 50 周年記念ということもあり、歴代の指揮者やゆかりのソリストをお招きしつつ、作曲家であり元音楽総監督の芥川也寸志氏や音楽監督の外山雄三氏、初代常任指揮者で現副理事長の片岡良和氏の作品も並べるなどのプログラミングを展開しオーケストラの歴史と成長を感じていただくような構成としました。

シーズンオープニングを飾る 5 月 26 日、27 日の第 363 回定期演奏会は、元首席客演指揮者であります小泉和裕をお迎えし、オーケストラの醍醐味でもある交響曲を 2 曲据えました。

1 曲目には、シーズンオープニングを飾る、春らしさをお届けする意味を込めて、シューマンの交響曲第 1 番「春」を演奏しました。

奇をてらわない小泉のタクトと仙台フィルの相性の良さはそのままに、さらに推進力を増した両者のアンサンブルは、久しぶりの手合わせとは思えない阿吽の呼吸を生み、カラヤンから薫陶を受けた指揮者ならではの解釈で 50 周年記念の定期演奏会第 1 曲目を華やかに演出しました。

後半は以前パスカル・ヴェロとも CD を作成したことのある、フランクの交響曲を演奏。ベルギーの生まれでフランスで活躍した作曲家でありながらも、ドイツ系の血を引いていたフランクの作風には、ドイツ語圏からの影響も大きく、

まさに近年パスカル・ヴェロのもとでフランス音楽を演奏し、飯守泰次郎のもとでドイツ音楽に取り組んできた楽団ならではの音楽的礎のもとに、華やかさをもちつつも重厚感のあるサウンドを生み出す結果となりました。

6月16日、17日の第364回定期演奏会では、令和5度から常任指揮者に就任した高関健の、常任指揮者としての定期演奏会デビューとなりました。

元音楽総監督の芥川也寸志へのリスペクトを込めて、芥川の代表作の一つでもある「弦楽のための3楽章」を1曲目に据え、選び抜かれた音色により圧倒的な説得力を持った演奏をお届けしました。その背景には芥川に対する楽団員の想いや、楽曲に対する尊敬の念があったからではないかと思います。

2曲目には2022年に開催された、第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第1位優勝を果たしたルウオ・ジャチンをソリストに迎え、彼のもっとも得意とするサン＝サーンスのピアノ協奏曲第2番を披露しました。軽快なタッチで演奏を進めるルウオ・ジャチンに、オーケストラは熱気あふれる演奏で寄り添いました。

3曲目は新常任指揮者の高関健がもっとも得意とするといっても過言ではない作曲家、マーラーの交響曲第4番を据え、ソプラノソリストには高関の信頼が厚い中江早希を抜擢しました。高関は普段からマーラーの譜面研究に余念がなく、マーラー協会と直接連絡を取り合い、楽譜の修正を提言しており、新しい版には協力者として名前が掲載されるほどの関係です。そのため今回の交響曲第4番は、解像度が高く分析的に掘り下げられた演奏となり、また終楽章ではソプラノの中江早希による天上の音楽が美しく鳴り響きました。

なお、この定期演奏会には、芥川也寸志の奥様である芥川眞澄様をお招きさせていただきました。

7月14日、15日の第365回定期演奏会は、元常任指揮者の円光寺雅彦が20年ぶりに定期演奏会へ登壇。仙台フィルが発展途上とはいえ、上昇気流に乗っていた時期にタクトを執っていた円光寺は、楽団員からも信頼が厚く、仙台フィル初の東京公演を指揮し、当時CD化したチャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」を、この節目の定期演奏会に迷わず選曲しました。この東京公演のおよそ4か月前、音楽総監督である芥川也寸志が急逝し、楽団員は涙を流しながらこの「悲愴」をサントリーホールで円光寺とともに演奏したというエピソードがあ

ります。

その東京公演から 34 年が経過したとは思えない円光寺節（楽団員は尊敬の念を込めてこう語る）は健在で、楽団員もリハーサルを重ねるごとに、過去の感覚を取り戻していったという「悲愴」については、最近入団した新入団員もその渦に自然と巻き込まれるような高いアンサンブルを構築しつつ、人間の感情を揺さぶる魂のこもった演奏になりました。

この後仙台フィル公式 YouTube チャンネルで配信されたこの楽曲は、クラシック音楽再生数では異例の 1 万 1 千回以上を数えています（2023 年 11 月 20 日現在）。

また 1 曲目は円光寺&仙台フィルとはゆかりの深いピアニスト、清水和音を招き、難曲であり名曲として知られるラフマニノフのピアノ協奏曲第 3 番を披露しました。類まれなテクニックと美しい弱音、ダイナミックな音楽性を駆使し、多くの聴衆を魅了しました。

なお、この定期演奏会冒頭では 7 月 11 日にご逝去された元音楽監督の故外山雄三に対し、J.S.バッハの管弦楽組曲第 3 番ニ長調 BWV1068 より第 2 曲“アリア”を献奏しました。

9 月 15 日、16 日の第 366 回定期演奏会では、令和 5 年度より指揮者に就任した太田弦が、定期演奏会に初登壇となりました。

若さ溢れるフレッシュなタクトに導かれ、「イギリス」をテーマに据えたプログラムに挑みました。

1 曲目、エルガー作曲の演奏会用序曲「フローサール」、2 曲目のディーリアス作曲／ビーチャム編曲の歌劇「村のロメオとジュリエット」より間奏曲“楽園への道”は、仙台フィル初演となる作品。太田弦は、仙台フィル初演奏となるこの 2 曲を見事にまとめ上げ、オーケストラのみならず、聴衆にもその説得力を示しました。

3 曲目には仙台市出身で、神奈川フィルのコンサートマスターに就任した大江馨を迎え、こちらもイギリスの作曲家ヴォーン・ウィリアムズ作曲ロマンス「揚げひばり」を演奏。繊細な音楽がコンサートホールにこだまし、集中力の高い演奏に大勢の聴衆が酔いしれました。ソリストアンコールには、仙台フィルコンサートマスターの西本、ヴィオラソロ首席奏者の井野邊、チェロ首席奏者の吉岡と、ソリスト大江馨によるエルガー作曲「愛の挨拶」弦楽四重奏版も演奏し、万雷の

拍手が起こりました。

仙台フィル指揮者として初の定期演奏会でメインに据えた作品は、ドヴォルザークの交響曲第7番。この作品は数十年前まで「イギリス」という副題がつけられており、今回のテーマに沿った選曲です。ここでも太田弦は明快な指揮による圧倒的なオーケストラサウンドを導き出し、将来性の高さを聴衆に示しつつ、弱冠29歳とは思えない卓越した技術で、オーケストラからの信頼を勝ち得ていました。

なお、この定期演奏会冒頭では8月15日に急逝された元常任指揮者の故飯守泰次郎に対し、グリーク作曲の「二つの悲しい旋律」より“過ぎた春”を献奏しました。

10月20日、21日の第367回定期演奏会は元正指揮者であった山下一史が登壇。山下を仙台フィルに招いた元音楽監督で7月にご逝去された故外山雄三の代表作である「管弦楽のためのラプソディ」を1曲目に披露。東日本大震災時、共に苦難を乗り越えてきた山下と仙台フィルは、深い絆で繋がっており、また7月にご逝去された元音楽監督外山雄三に対する感謝の念からか、大変熱の込められた演奏が繰り広げられました。

2曲目は吹奏楽で人気の作品で、ハチャトゥリヤン作曲の組曲「バレンシアの寡婦」（管弦楽版）を演奏。吹奏楽も得意分野とする山下ならではのアプローチと正指揮者就任時代から変わらぬ熱いタクトで、今までにない厚みを帯びた音色を引き出し、多くの聴衆から仙台フィルはこんなにも壮大な音を出せる楽団になったのか！という感想を多く寄せていただきました。

後半メインの楽曲は、シベリウスが自身の50歳を祝うために作曲した交響曲第5番。前半の華やかさとは違い、内から湧き上がるような、秘めた情熱を描いたこの難曲に対し、これまでともに苦難を乗り越えた山下とオーケストラは、有機的に過不足なくまとめ上げました。

山下氏の再来に、異様な盛り上がりを見せたファンへ捧ぐアンコールは、同じくシベリウス作曲の「アンダンテ・フェスティエーヴォ」をお届けし、演奏会は厳かに祝祭感を帯びつつ終演しました。

11月17日、18日の第368回定期演奏会は、指揮者にジョン・アクセルロッドが仙台フィル初登壇、ギターに作曲者のホセ・マリア・ガジャルド・デル・レ

イ、箏奏者に榎戸二幸を迎え、ダニエル・オロスコのナレーションの下、お届けしました。2021年に京都市交響楽団が委嘱した、慶長遣欧使節団の支倉常長をモチーフに作曲された「セビリアの侍」を世界2回目の演奏として、仙台フィル50周年を記念して披露しました。日本語とスペイン語のナレーションが入りながらの演奏で、スペインの雰囲気ギターが、そして和の雰囲気を箏が奏で、音楽も調性のあるわかりやすさで多くの聴衆を魅了しました。後半には「船」つながりとして、リムスキー＝コルサコフ作曲のシェエラザードを取り上げ、シェエラザード王妃の語りを彷彿させるヴァイオリンソロをコンサートマスターの神谷未穂が務め、艶としなやかさのある演奏を披露しました。なお、この公演には両日伊達家第18代当主の伊達泰宗氏と、18日には支倉家第14代当主の支倉正隆氏をそれぞれお招きし、また17日の公演には伊達武将隊の支倉六右衛門常長氏をお招きして公演を大いに盛り上げました。

1月26日、27日の第369回定期演奏会には仙台フィル元指揮者～常任指揮者を歴任した梅田俊明氏が登壇。ソリストには第1回仙台国際音楽コンクール優勝者のスヴェトリン・ルセフ氏を招聘。1曲目には現副理事長であり、作曲家、そして宮城フィル創設に多大な御尽力を賜った、初代常任指揮者である片岡良和氏の代表作「抜頭によるコンポジション」を据え、2曲目3曲目には梅田が仙台フィル定期演奏会デビュー時と奇しくも同じプログラムとなったサン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番とバルトークのオーケストラのための協奏曲がラインナップされました。

洋楽器で奏でているオーケストラサウンドが、優れた作曲技法により雅楽の音色にも聞こえてしまう「抜頭によるコンポジション」。この50年の歴史を駆け抜けるような推進力のある演奏を展開したオーケストラに、ご来場された片岡良和副理事長は「私の作品が作曲者自身の手を離れ、本当の意味でのオーケストラ作品へと昇華した。」との感想を話されておりました。

ヴァイオリン協奏曲第3番では、23年前、2001年から始まった仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門第1回目の優勝者、スヴェトリン・ルセフが確かなテクニックのみならず、フランス音楽のエスプリを見事に表現し、ダイナミックさと繊細さを持ち合わせた演奏を披露して、芸術家として深化した姿を久しぶりに仙台の聴衆へ示すこととなりました。

メインで取り上げたバルトークは指揮も演奏も難易度が高い作品ですが、お

互いに力量を上げた梅田と楽団員の演奏は作品に対する輪郭を明快に表現し、両者の技量の高さを示すような演奏を披露しました。

なお、副理事長の片岡良和氏には1月27日の公演にご来場いただき、「抜頭によるコンポジション」演奏後に指揮者の梅田俊明氏による、片岡氏の長年の功績に対する感謝の気持ちを表わす花束贈呈のセレモニーも行われました。

2月16日、17日の第370回定期演奏会には常任指揮者の高関健の下、2022年に開催された第8回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門で圧倒的な優勝を飾った中野りながソリストとして登壇。

1曲目は50周年記念として元音楽総監督である芥川也寸志氏の出世作であり代表作でもある「交響管弦楽のための音楽」を据え、特に第2楽章のアレグロでは「今」の仙台フィルを象徴するような、前のめりな演奏ながらもコントロールの効いた質の高い演奏を展開しました。

ソリストの中野りなの演奏は、若干19歳とは思えないような見事なテクニックと奇をてらわない楽譜に忠実な演奏が、感情にも訴えかける音色を併せ持ち、将来がますます楽しみになりました。仙台にゆかりのあるアーティストとして世界に羽ばたく逸材と確信しています。

ドヴォルザークの交響曲第6番は作曲家自身が当時満を持して第1番目の交響曲として発表した作品で、細部にわたるまで検討し尽くされた高関のタクトの元、作品の理解度を深めた演奏に大きな拍手とブラボーの声援が飛び交ってありました。決して演奏回数が多い作品ではありませんが、終演後お帰りなる多くお客様からこの作品の生演奏が聴けて本当に良かったとの声が多数寄せられました。

3月15日、16日には50周年記念最後となる第371回定期演奏会が桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを招聘して開催されました。

長年パスカル・ヴェロと取り組んできたフランス音楽、アメリカ音楽を50周年の集大成として選曲しました。

ジャズの要素を取り入れながら室内楽的な響きを聴かせるミヨールのバレエ音楽「世界の創造」からはじまり、ドビュッシーの交響組曲「春」とオネゲルの交響詩「夏の牧歌」はそれぞれ違うカラーながらもヴェロは長年オーケストラと培った絶妙なアンサンブルで絵画的な色彩感を音楽で表現していました。

後半に取り上げたコープランドの交響曲第3番は、仙台フィル初挑戦ながら、これまでの成長を示すような大作であり、ヴェロはこの大曲を華やかに、そしてパワフルにまとめ上げ、オーケストラも見事に表現していました。第4楽章冒頭に演奏される「市民のためのファンファーレ」のきらびやかで荘厳な響きは、半世紀にわたり支えてくださったすべてのサポーターへの感謝の気持ちと、今後の躍進を約束する決意に満ちた音色で「感謝と躍進」と題した50周年の1年を華やかに飾りつつ締めくくりました。

(2) 特別演奏会 (12回 13公演)

4月9日、毎春恒例の0歳児から入場できる子供向けコンサート「オーケストラと遊んじゃおう!2023」を、日立システムズホール仙台において開催しました。コロナ禍後初となる客席収容率を100%で運用し、コロナ禍以前は開演前に行っていたオーケストラのすべての楽器を体験できる「楽器博物館」を前年同様中止にしたものの、会場内3か所(コンサートホール舞台上、シアターホール舞台上、交流ホール)に弦楽四重奏や木管五重奏を配置し、指揮者体験を楽しんでいただくとともに、なじみのある演目で多くの家族連れの皆様に楽しんでいただきました。

5月21日には仙台フィル50周年記念演奏会として「仙台フィル創立50周年&五嶋みどりデビュー40周年スペシャルコンサート」を開催。

話題のソリストとの初共演ということもあり、チケットは発売開始わずか二日後には完売となりました。

演目はすべてチャイコフスキーのプログラムで構成し、特に五嶋みどりと共演したヴァイオリン協奏曲では、ソリストが変幻自在に演奏するスタイルにもかかわらず、コンクールで鍛え上げられたアンサンブル能力と高関健の明快なタクトによりピタリと寄り添い異次元の演奏を披露し、満席のお客様から万雷の拍手を頂戴しました。

7月22日には、前年地震による修繕のための閉館で中止となった、東北UNITED「仙台フィル×山響 合同演奏会」を仙台フィル50周年記念演奏会として東京エレクトロンホール宮城にて開催。指揮者には仙台フィル桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを招聘し、ヴェロが最も得意とするフランスの作曲家、ドビ

ユッシーやラヴェルの名曲をラインナップし、ほぼ満席のお客様にご来場いただきました。

近年合同演奏会を重ねてきた両楽団には、もはや演奏上の垣根はなく、合同演奏会とは思えない緻密で明るく華やかなアンサンブルで、多くの聴衆を魅了しました。特にメインプログラムで取り上げたラヴェルの傑作「ボレロ」では、両楽団の首席奏者が見事なソロを演奏し、東北のオーケストラのレベルの高さを提示しました。

8月5日、こちらも前年地震による修繕のための閉館で中止となったサマーフェスティバル「仙台フィルハーモニー with アキラさんスペシャルコンサート Vol.1」が、1年越しで東京エレクトロンホール宮城にて開催することができました。

このコンサートは5歳児から入場可能とし、以前NHKEテレで人気を博した子供向け音楽番組「ゆうがたクインテット」のピアニスト兼コンサートマスターで、お茶の間で大人気となった宮川彬良氏をお迎えしました。

楽曲は誰もが知っている作品をプログラミングし、多くの親子連れの皆様にご来場いただきました。

コンサートでは、お客様の質問に宮川氏が答えるコーナーが人気を博しました。コンサート中に答えられなかった質問については、仙台フィル公式YouTubeチャンネルにて番組を制作し、後日すべての質問に宮川氏本人が回答しました。

この宮川氏とのサマーフェスティバル企画は、令和6年も続けてまいります。

8月26日に岩沼市民会館で開催した「マイタウンコンサート」は、30周年を迎えた記念のコンサートとなりました。

この記念公演には、当初元仙台フィル指揮者の角田鋼亮を据えておりましたが、演奏会直前に体調不良により降板となったため、当楽団の指揮者である太田弦を代役に据え、またソリストには現在人気右肩上がりのピアニスト、阪田知樹を招き開催しました。

プログラムはラフマニノフ生誕150年を祝い、甘美なメロディが人気のヴォカリーズ、第18変奏が有名なパガニーニの主題による狂詩曲、熱狂的な旋律のドヴォルザークの序曲「謝肉祭」を前半に置き、後半は近年岩沼で取り上げてきた作曲家、ビゼーの傑作である歌劇「カルメン」組曲を、ストーリー順に並べ変

えて演奏する特別バージョンとしてお届けしました。

9月2日には、仙台フィル50周年記念演奏会として、初代理事長である第6代故藤崎三郎助氏を顕彰する「スペシャルサンクスコンサート」を日立システムズホール仙台・コンサートホールにて開催いたしました。

このコンサートには現職の理事・評議員のみならず、元理事・評議員の皆様や、宮城フィル創設期にお世話になった皆様をご招待し、懐かしいパネル展示なども行い、仙台フィルの歴史を振り返り感謝を捧げるコンサートとなりました。

指揮は初代理事長と大変懇意にしておられた、元常任指揮者の円光寺雅彦を迎え、ピアニストにはイギリスで活躍中の小川典子をお招きいたしました。

初代理事長が最もよくお聞きになっていたと伺いました、ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」をメインに据え、お気に入りだったというヘンデルの組曲「水上の音楽」から2曲を演奏会冒頭に、2曲目にはグリーグのピアノ協奏曲を配しました。

これまで仙台フィルをお支えいただいた関係者のみならず、ご来場の大勢のお客様に感謝の意を表しつつ、仙台フィルの成長ぶりをアピールし、今後の躍進をお約束するコンサートとなりました。

12月7日には障害をお持ちの方とその同伴者を対象に開催している「もりのみやこふれあいコンサート」がコロナ禍後4年ぶりに満席のお客様をお迎えして開催することが叶いました。

故岩城宏之氏と故外山雄三氏の友情から生まれた、オーケストラ・アンサンブル金沢（以下OEK）との合同演奏会は2002年より開催してきましたが、12月19日にはOEKを21年振りに仙台へお招きしました。仙台フィル創立50周年記念の特別演奏会として、両楽団のミュージックアドバイザーを歴任し、現在は世界的な指揮者へと成長した山田和樹氏を指揮者に迎えた「フレンドシップコンサート」を、東京エレクトロンホール宮城にて開催しました。OEKには、2011年3月に起きた東日本大震災直後、オーケストラとして全く活動ができなかった仙台フィルを震災1ヶ月後には金沢にお招きいただき、合同演奏会を開催していただきました。当時、多くの聴衆から頂戴した励ましの声に、活力と勇気をいただいた経緯があります。その後も2021年には石川県立音楽堂20周年記念

のコンサートにもお招きいただいております。こうした経緯を踏まえて、仙台フィル創立 50 周年に合わせて感謝の気持ちを表すために OEK をお招きしました。

創立 50 周年を高らかに祝う作品であるコープランド作曲の「市民のためのファンファーレ」を冒頭に据え、両楽団に縁があった外山雄三氏の作品である「交響的 石川」を 2 曲目に、仙台フィルが得意としているフランス音楽の傑作であるビゼー作曲の「アルルの女」組曲抜粋を 3 曲目に演奏しました。後半は OEK のような室内オーケストラでは取り上げる機会のない大編成の作品である、R. シュトラウスのアルプス交響曲を合同ならでのプログラムとしてメインに据え、大迫力の演奏をお届けしました。アンコールで取り上げた外山雄三の代表作である「管弦楽のためのラプソディ」では、山田和樹氏独特のアプローチから、客席の聴衆にも「掛け声」に参加する場面を作り、舞台上と客席が一体となったまま、熱気をはらみつつ壮大な公演は幕を閉じました。

12 月 23 日には同じく東京エレクトロンホールで第九特別演奏会を開催しましたが、コロナ禍後初めて仙台フィル合唱団の規模を戻し、本来の意義である市民参加を再構築できました。前年までの 2 年間はコロナ禍の影響で大規模な合唱が編成できず、プロの合唱団である東京混声合唱団の力を借りながら開催しておりましたが、今回は 140 名規模の市民合唱団を編成でき、公演までの練習も滞りなく進みました。しかしながら、コロナ禍以前は 180 名以上の合唱団規模だったため、今後は合唱団員の増員という課題が残りました。公演のソリストには高関が最も信頼する中江早希（ソプラノ）、相田麻純（アルト）、宮里直樹（テノール）、大沼徹（バリトン）を据え、市民合唱団と一体となって、コロナ禍明けを象徴するような歓喜の歌を高らかに鳴り響かせました。なお、1 曲目には 2024 年が生誕 200 周年のアニバーサリーイヤーになる、スメタナ作曲の連作交響詩「我が祖国」から第 6 曲目のブラニークも配置し、24 年度高関健が同作品を定期演奏会で取り上げることへの機運を高めました。

2024 年 1 月 8 日には福島市音楽堂にて指揮者に太田弦を起用し、ニューイヤーコンサートを開催しました。コロナ禍明けを祝う意味合いで、前半にはヨハン・シュトラウス 2 世などの小品を集め、ウィーンフィルのニューイヤーコンサートを彷彿させる賑やかなプログラミングとしました。

後半にはフィンランドの作曲家、シベリウスの交響曲第 2 番を取り上げました。この交響曲はシベリウスの作曲した 7 つの交響曲の中でもとりわけ有名で、演奏機会も多い作品です。普段なかなかフルオーケストラの演奏会が叶わない地域ということもあり、交響曲の醍醐味を存分に味わっていただきました。

3 月 17 日には例年ニューイヤーコンサートを開催している福島県いわき市において、名曲コレクション in いわき パスカル・ヴェロ×仙台フィル公演をいわきアリオスを会場に開催しました。50 周年記念最後の定期演奏会で取り上げたプログラムをそのまま演奏し、復興が進む福島沿岸地域のお客様に感謝のファンファーレをお届けしました。なお、このコンサートには福島在住の小中高生 100 名を招待いたしました。

3 月 20 日には 51 年目の「進」時代に向け発表している二つの新シリーズ「名曲トラベル」×「エンターテインメント定期」第 0 回と題してこの二つのシリーズの懸け橋となる公演として「クラシカロイドコンサート」を開催しました。クラシカロイドは 2016 年と 2017 年それぞれ 10 月から NHK E テレで半年間放送されたアニメで、「有名な作曲家が現代に存在したら」をテーマに様々な要素を組み合わせたオリジナル作品です。有名クラシック音楽を現代風にアレンジした“ムジーク”というクラシック音楽への新たなアプローチを確立しています。常任指揮者の高関健を迎え、ピアノには第 8 回仙台国際音楽コンクール 3 位入賞の太田糸音を配し、ゲストにクラシカロイド劇中歌やエンディングテーマを担当した EHAMIC、声楽にはソプラノに宮地江奈、バリトンに又吉秀樹という豪華布陣で臨み、さらに仙台フィルからはチェロソロ首席奏者の三宅進、オーボエ首席奏者の西沢澄博がソロ演奏を担当、劇伴音楽をシンフォニックに再現しました。このコンサートにはこれまでのクラシックコンサートでは来場したことのない新たな客層が全国から集まり、大いに盛り上がりました。

（3）依頼演奏会（51 公演（新規 7 公演を含む）

令和 5 年度はコロナ禍が明けたとはいえ、感染症に対する慎重な対応を継続し、感染防止に努めてまいりました。コロナ禍で依頼が減少した依頼演奏会は、仙台駅のコンサートや仙台市内の小中学校 5 年生と中学校 1 年生を対象とした「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」（学校訪問ミニコンサートとして室内楽

で開催)をはじめとする多くの公演が引き続き中止となり、文化庁巡回公演も、他団体の競合が増えた上に公演開催数が全国的に削減されたことも相まって、依頼公演数は伸び悩みました。

一方で新規公演として、5月には東北学院大学新キャンパス内押川記念ホールのかげら落とし公演を獲得し、泉キャンパスから移設されたパイプオルガンの響きを堪能していただくというコンセプトの下、サン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」を演奏し多くの関係者にお楽しみいただきました。7月には2019年以來4年ぶりに酒田共同火力様より公演依頼をいただき、酒田共同火力50周年記念演奏会に出演しました。このコンサートは太田弦指揮の下、ピアニストには大変人気の高い角野隼斗を抜擢し、オールアメリカンプログラムで酒田共同火力様の50周年を祝うコンサートとして構成し、チケットは発売してほどなく売り切れとなりました。10月には多賀城開府1300年記念プレ公演のオペラ「椿姫」公演、11月にはビルボードクラシックス倉木麻衣公演、12月にはソニー音楽財団 concert for Kids とロームミュージックファンデーション30周年記念公演、1月には、福島県国見町主催のコンサートも獲得し、文化庁助成事業であるオーケストラ・キャラバン公演は対前年度2公演増の4公演(由利本荘市(8月)、釜石市(8月)、函館市(10月)、八戸市(11月))を獲得しました。

例年の依頼公演としては、5月にアイリスオーヤマクラシックススペシャル2023がサントリーホールで開催され、桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを招聘し、ソリストにはオルガンに今井奈緒子、ティンパニソロに首席奏者の竹内将也を立てオールフランスプログラムとしてプーランクの組曲「牝鹿」、「オルガン・弦楽とティンパニのための協奏曲」を前半に演奏し、後半には幾度となくヴェロと共演している得意のレパートリーであるベルリオーズの「幻想交響曲」を披露しました。この公演は完売大入りとなりました。

6月には共演を重ねている秀光中学校・育英高等学校のオーケストラ部とチャイコフスキー3大バレエのひとつである「くるみ割り人形」の組曲で合同演奏し、若い世代との音楽交流が続いております。

昨年度より再開された七十七ふれあいコンサートは7月に南三陸町、1月に名取市で開催され、多くの子供たちにご来場いただきました。

また7月には山響合同演奏会がやまぎん県民ホールで開催され、桂冠指揮者パスカル・ヴェロの下、フランス音楽の名曲を揃え、ドビュッシーの「牧神の午

後への前奏曲)、ラヴェルの「ダフニスとクロエ」第2組曲、「高雅で感傷的なワルツ」～「ラ・ヴァルス」(演出の意図として続けての演奏)、「ボレロ」を演奏し、多くのお客様に両楽団の高い演奏水準を示しつつ、合同ならではの迫力のある演奏をお届けしました。

9月29日から10月1日には恒例の仙台クラシックフェスティバルが開催され、イズミティ21がいまだ改修工事のため使用できないことから、日立システムズホール仙台で3公演開催しました。指揮者には若手指揮者の中でも有望株である松本宗利音を抜擢し、ソリストには上野通明(チェロ)、シャノン・リー(ヴァイオリン)、福間洸太郎(ピアノ)など人気のアーティストを招聘し、3公演とも完売となりました。なお24年度よりイズミティ21がリニューアルオープンするため、令和6年度のせんくらは以前と同様5公演となります。

毎年恒例のtbcラジオ「日立システムズエンジョイ!クラシック」公演は11月5日、常任指揮者の高関健の指揮で尚絅学院中学校・高等学校管弦楽部と共演し、6月の秀光中学校・育英学園高等学校のオーケストラ部との共演と同様に、公演前の事前指導も含め深い音楽交流が実現しております。

11月10日には毎年恒例となってきた元NHK交響楽団首席オーボエ奏者で現在指揮者として活動している茂木大輔を指揮者と解説にお招きし、「田園」をテーマとし、これに沿う選曲と分かりやすい解説でお楽しみいただきました。

11月12日には昨年に引き続き「第2回秋田・潟上国際音楽祭」に招かれ、あきた芸術劇場ミルハスにおいて初共演となる指揮者のレインハルト・ジーハフアートと、ピアニストでこの音楽祭の主催者である千田桂大と共に、モーツァルトのピアノ協奏曲第3番やガーシュウインの「ラプソディ・イン・ブルー」、ラヴェルの「ボレロ」を演奏してまいりました。

11月26日には昨年より再開された岩沼第九公演に出演し、指揮者の岩村力のもと地元のソリストとも共演して第37回目を迎えた公演を大いに盛り上げました。

12月3日には大船渡市においてけせん第九演奏会に出演しました。けせん第九立ち上げ当初より縁の深い元仙台フィル正指揮者の山下一史を指揮者に、岩手出身の声楽家ソリストと共に歓喜の歌をお届けしました。

1月9日には新春恒例の藤崎ニューイヤーコンサートに出演。仙台フィル指揮者の太田弦と共に前半はウィーンフィルのニューイヤーコンサートでも毎年多数の作品が取り上げられている、ヨハン・シュトラウス2世の華やかな小品を

取り上げ、後半には本格的な交響曲をお聞きいただくために、シベリウスの交響曲の中でも人気の高い第2番を演奏し、多くの聴衆を魅了しました。

1月14日にはコロナ禍以前に幾度も共演を重ねていた地元のバレエ集団であるハイパーウィンドと「オーケストラとバレエの世界」と題して共演し、ドリーブの「 Coppélia」やチャイコフスキーの「白鳥の湖」、「くるみ割り人形」などの演目をお披露目し満席のお客様に迎えられました。

また1月20日には福島県国見町より初めて依頼公演の要請があり、ホールの舞台面積を考慮し弦楽オーケストラを編成し公演を行いました。大変好評だったため、令和6年度も開催依頼が来ております。

2月3日には毎年日本演奏連盟と開催している新進演奏家育成プロジェクト／オーケストラシリーズが開催され、オーディションで選ばれた5名のソリスト（トロンボーン、バリトン、ソプラノ、ピアノ、ヴァイオリン各1名）と協奏曲や声楽曲で共演し、新人の育成に貢献しております。

今年で30回目を迎える「オーケストラ・スタンダード」シリーズ（主催：仙台市青年文化センター（公財）仙台市市民文化事業団）は2月23日に開催されました。この公演はこの30回目の節目をもって一区切りとなり、次年度からは「オーケストラザンマイ」という名称で新シリーズに切り替わります。この節目の公演には3大交響曲と呼ばれる「未完成」、「運命」、「新世界」をラインナップし、チケットは完売し満員のお客様より大きな拍手をいただき閉幕しました。

3月10日には東日本大震災翌年の平成24年（2012年）3月から継続的に開催されている「みんなで作る復興コンサート」（主催 TBS ラジオ、tbc 東北放送、特別協賛ロジスティード(株)）が2018年度以降6年ぶりに仙台市内（東北大学萩ホール）で開催されました。指揮者は元仙台フィル副指揮者である大井剛史、ゲストに歌手の森口博子を迎え「音楽の力による心の復興」をテーマに震災の記憶を風化させることなく語り継ぎ、新しい時代を切り開いていくコンサートという位置づけで曲目も構成し演奏いたしました。

（4）室内楽

令和5年度も仙台市内のみならず、東北さらには全国各地で広く室内楽活動を行いました。

例年開催している東北電力スクールコンサートでは青森県中泊町、弘前市を

訪問しました。

また仙台市の歴史姉妹都市である宇和島市の教育委員会（津島支所）からの依頼で、津島町の全小中学校（計7校）をアンサンブルで巡回しました。

2年目となる定禅寺通りミュージックカルチャー事業では勾当台公園野外音楽堂にてポップスアーティストと仙台フィル弦楽四重奏のコラボレーション企画として、田島貴男、サニーデイ・サービス、浅井健一と3回の共演を行いました。この事業は令和6年度も引き続き開催される予定です。ポップスとの共演はこのほかにエフエム名取の主催により半崎美子、稲垣潤一と共演しております。

そのほか、利府町リフノスで町内の子供向け室内楽公演「目指せ！未来の音楽家」公演が2回、登米市民文化祭、仙台駅でのフルオーケストラ公演の代替え室内楽公演、仙台市議会閉場セレモニー、東日本大震災追悼式（仙台市）、宮城県図書館エントランスを活用した令和6年度から開催予定の名曲トラベルをPRするための室内楽公演、三菱地所泉パークタウン50周年記念新タウンソング録音など多岐にわたり活動いたしました。

3. 青少年音楽鑑賞及び演奏等に関する指導及びその普及

（1）青少年のためのオーケストラ鑑賞会

仙台市が主催する小学校5年生と中学校1年生を対象とする「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」は昨年度同様新型コロナウイルスの影響により中止となり、その代替え公演として仙台市内の公立小学校を対象に室内楽による訪問ミニコンサートを開催し、57校を訪問して音楽を届けました。

（2）「文化芸術による子供育成推進事業・巡回公演事業」及び「文化芸術による子供育成推進事業・文化施設等活用事業」

全国各地の小中学校を訪問する文化庁主催「文化芸術による子供育成推進事業」（7校8公演）に加え、補正予算事業である「文化芸術による子供育成推進事業・文化施設等活用事業」（2施設3公演）により、青森、岩手、秋田、宮城の小中学校を訪問して公演を行いました。

4 その他目的達成のために必要な調査研究

(1) 演奏に必要な調査研究

日本オーケストラ連盟加盟のオーケストラをはじめ、文化庁、日本芸術文化振興会、アフィニス文化財団、ロームミュージックファンデーション、日本クラシック事業協会との積極的な情報共有・連携を通じて、新たな助成制度等について多くの知識を得ました。

毎年開催している全国のオーケストラのステージスタッフによる会議並びにライブラリアン会議はコロナ禍が明け、実開催の運びとなりました。ステージスタッフ会議は7月31日に山形テルサ、8月1日やまぎん県民ホールにて開催し、またライブラリアン会議は9月11日にやまぎん県民ホールで開催し、山形交響楽団と仙台フィルが幹事を務め、情報共有や問題解決について活発な議論がなされました。

(2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和5年度も新型コロナウイルスの蔓延のため感染症対策を行いながら、合唱団を編成しました。舞台上の人数制限を大幅に緩和して、「仙台フィルと第九を歌う合唱団」は約90名の市民合唱団をオーディションにより選出し、さらにその他常盤木学園高等学校音楽科2年生と宮城学院女子大学音楽科有志を加え120名ほどの合唱団を編成することが叶いました。合唱団はコロナ禍以前のような募集や活動を行うことができ、12月23日に歓喜の歌を響かせました。

(3) 仙台ジュニアオーケストラの指導

令和5年度は感染症対策をしっかりと講じた上で通常通りの活動を行うことができました。

令和5年10月15日には第31回の定期演奏会を、そして令和6年3月24日にはスプリングコンサートを開催しました。

スーパーヴァイザーの高関健指導のもと、子供たちの演奏技術は飛躍的に向上しています。

(4) ラジオ放送とソーシャルメディアの活用

毎月第1日曜日夜に放送中のエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和5年度も楽団員1名と事務局員1名の出演により、歴代の仙台フィル演奏会より厳選した音源をセレクトしてお届けし、好評を得ました。そのほか、コンサートマスター西本幸弘が出演している「TOHKnet Sound Pizz.」や「サンデークラシックス」でも仙台フィルの情報を発信しています。tbc東北放送では引き続き毎月第2土曜日夜に「日立システムズエンジョイ！クラシック」が継続放送されており、コンサートマスターの西本幸弘（8月～11月）、チェロソロ首席奏者の三宅進（12月～3月）、オーボエ首席奏者の西沢澄博（4月～7月）がナビゲータを務めています。これら放送媒体に加え、公式X（旧Twitter）、公式Facebook、公式InstagramなどのSNSやLINE公式アカウントによる情報発信を積極的に行っています。

各定期演奏会の指揮者を中心に、聴きどころを事前に仙台フィル公式YouTubeチャンネルにて配信する企画も継続しております。

また令和5年度から定期演奏会の内、7月の第365回（円光寺雅彦指揮、チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」）、9月の第366回（太田弦指揮、ドヴォルザーク：交響曲第7番）、2月の第370回（高関健指揮、ドヴォルザーク：交響曲第6番）を公式YouTubeチャンネルにて全曲配信しており、最高2万回を超えるこれまでにない視聴回数を記録しております。

以上

（敬称略）

【参考資料】

(1) 定期演奏会 (18 公演)

・第 363 回～371 回 (金・土 2 回公演)

会場 日立システムズホール仙台・コンサートホール 開演 金曜日午後 7 時・土曜日午後 3 時

回	開催日	出演者	演奏曲目
363	5 26(金) 5 27(土)	指揮 小泉和裕	シューマン 交響曲第 1 番 変ロ長調 op 38「春」 フランク 交響曲 二短調
364	6 16(金) 6 17(土)	指揮 高関健 ピアノ ルウオ・ジャチン ソプラノ 中江早希	芥川也寸志 弦楽のための三楽章 サン＝サーンス ピアノ協奏曲第 2 番 ト短調 op 22 マーラー 交響曲第 4 番 ト長調
365	7 14(金) 7 15(土)	指揮 円光寺雅彦 ピアノ 清水和音	ラフマニノフ ピアノ協奏曲第 3 番 二短調 op 30 チャイコフスキー 交響曲第 6 番 ロ短調 op 74 「悲愴」
366	9 15(金) 9 16(土)	指揮 太田弦 ヴァイオリン 大江馨	エルガー 演奏会用序曲「フローラル」 op 19 ディーリアス/ビーチャム編 歌劇「村のロメオとジュリエット」より間奏曲「楽園への道」 ヴォーン＝ウィリアムズ ロマンズ「揚げひばり」 ドヴォルザーク 交響曲第 7 番 二短調 op 70
367	10 20(金) 10 21(土)	指揮 山下一史	外山雄三 管弦楽のためのラプソディ ハチャトゥリャン 組曲「ヴァレンシアの寡婦」 シベリウス 交響曲第 5 番 変ホ長調 op 82
368	11 17(金) 11 18(土)	指揮 ジョン ・アクセルロッド ギター ホセ・マリア ・ガジャルド 箏 榎戸二幸 ナレーション ダニエル ・オロスコ	ホセ・マリア・ガジャルド・セビリアの侍 リムスキー＝コルサコフ 交響組曲「シェエラザード」 op 35
369	2024 年 1 26(金) 1 27(土)	指揮 梅田俊明 ヴァイオリン スヴェトゥリン・ルセフ	片岡良和 抜頭によるコンポジション サン＝サーンス ヴァイオリン協奏曲第 3 番 ロ 短調 op 61 バルトーク 管弦楽のための協奏曲 Sz 116
370	2 16(金) 2 17(土)	指揮 高関健 ヴァイオリン 中野りな	芥川也寸志 交響管弦楽のための音楽 シベリウス ヴァイオリン協奏曲 二短調 op 47 ドヴォルザーク 交響曲第 6 番 二長調 op 60
371	3 15(金) 3 16(土)	指揮 パスカル・ヴェロ	ミヨー バレエ音楽「世界の創造」 op 81 ドビュッシー 交響組曲「春」 オネゲル 交響詩「夏の牧歌」 コープランド 交響曲第 3 番

(2) 特別演奏会 (13公演)

	開催日	出演者	演奏曲目
オーケストラと遊んじゃおう	4 9(日) 2回	指揮 太田弦 ピアノ 加藤昌則	スーザ、行進曲「星条旗よ永遠なれ」 チャイコフスキー バレエ組曲「くるみ割り人形」より“葦笛の踊り”他 ※楽器博物館は実施せず、指揮者体験と楽器展示をコンサート前に開催する。
仙台フィル創立50周年&五嶋みどりデビュー40周年スペシャルコンサート	5 21 (日)	指揮 高関健 ヴァイオリン 五嶋みどり	チャイコフスキー 弦楽四重奏曲第1番 二長調 第2楽章「アンダンテ・カンタービレ」(弦楽合奏版) チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲 二長調 op 35 チャイコフスキー 交響曲第4番 ヘ短調 op 36
東北 UNITED 仙台フィル×山形交響楽団	7 22(土)	指揮 パスカル・ヴェロ 共演 山形交響楽団	ドビュッシー 牧神の午後への前奏曲 ラヴェル 「ダフニスとクロエ」第2組曲 ラヴェル 高雅で感傷的なワルツ ラヴェル ラ・ヴァルス ラヴェル ボレロ
サマーフェスティバル スペシャルコンサート with アキラさん Vol 1	8 5(土)	指揮・ピアノ 宮川彬良	クインテット・マジカル・オーバーチュア エリーゼのために イエロー・サブマリン 他
マイタウンコンサート in 岩沼	8 26(土)	指揮 太田弦 ピアノ 阪田知樹	ラフマニノフ ヴォカリーズ ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲 op 43 ドヴォルザーク 序曲「謝肉祭」 ビゼー 「カルメン」組曲
スペシャルサンクスコンサート	9 2 (土)	指揮 円光寺雅彦 ピアノ 小川典子	ヘンデル/ハーティ版 組曲「水上の音楽」より I VI グリーグ ピアノ協奏曲 イ短調 op 16 ベートーヴェン 交響曲第3番 変ホ長調 op 55 「英雄」
もりのみやこのふれあい コンサート	12 7(木)	指揮 坂入健司郎	ロッシニ 歌劇『ウィリアム・テル』序曲より「スイス軍の行進」、エルガー・愛のあいさつ、ブラームス ハンガリー舞曲第5番、ドヴォルザーク スラヴ舞曲第10番 op 72-2 他
「仙台フィル×オーケストラ・アンサンブル金沢 with 山田和樹 フレンドシップコンサート」	12 19 (火)	指揮 山田和樹 共演 オーケストラ・アンサンブル・金沢	コープランド 市民のためのファンファーレ 外山雄三 交響的「石川」 ビゼー 「アルルの女」組曲より”前奏曲”、”アダージェット”、”メヌエット”、”フェアランドール” R シュトラウス アルプス交響曲
第九特別演奏会	12 23(土)	指揮 高関健 独唱 中江早希、相田麻純、宮里直樹、大沼徹 合唱 仙台フィルと第九をうたう合唱団	スメタナ 連作交響詩「我が祖国」よりVI ブラニーク ベートーヴェン 交響曲第9番「合唱付き」
オーケストラ・キャラハン ～オーケストラの響きを街々へ～ 名曲コレクション ニューイヤー コンサート 2024 福島	2024年 1 8(月・祝)	指揮 太田弦	J. シュトラウスII 春の声、雷鳴と電光、皇帝円舞曲 ヨーゼフ・シュトラウス 鍛冶屋のポルカ シベリウス 交響曲第2番 他

名曲コレクション いわき	3/17 (日)	指揮 パスカル・ヴェロ	ミヨー バレエ音楽「世界の創造」op 81 ドビュッシー 交響組曲「春」 オネゲル 交響詩「夏の牧歌」 コープランド 交響曲第3番
名曲トラベル第 0回×エンター テインメント定 期第0回 「クラシカロイ ドコンサート」	3/20 (水)	指揮 高関健 ピアノ 太田糸音 ゲスト EHAMIC ソプラノ 宮地江奈 バリトン 又吉秀樹 チェロ 三宅進 オーボエ 西沢澄博	布袋寅泰、スティーヴ・リップソン「ClassicaLoid 〜クラシカロイドのテーマ〜〈アコースティック Ver〉 ワーグナー 楽劇「ニュルンベルクのマイスタ ージンガー」第1幕への前奏曲 チャイコフスキー バレエ音楽『くるみ割り人 形』より小序曲 チャイコフスキー バレエ音楽『白鳥の湖』よ り第2幕の情景 他

(3) 依頼演奏会 (51公演)

主 催 者	公 演 数	備 考
[公演数]		
文化庁 (文化芸術による子供育成推進事業)	11 公演	
仙台市教育委員会等 (青少年のためのオーケストラ鑑賞会)	2 公演	動画配信として実施予定。 この他に代替事業として室 内楽による学校訪問ミニコ ンサートを実施予定
仙 台 市 (含む関係団体)	7 公演	市制施行記念、せんくら、 劇場音楽堂
宮 城 県 (県民ロビーコンサート・地方音楽会)	3 公演	
七 十 七 銀 行 (七十七ふれあい、スターライトシンフォニー)	3 公演	
藤 崎 (藤崎ニューイヤーコンサート)	1 公演	
アイリスオーヤマ (アイリスオーヤマクラシックスペシャル)	1 公演	
一 般 依 頼 各種コンサート	23 公演	
依頼公演合計	51 公演	